

SAPPORO 教区 NEWS

第14号

2010年1月30日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

主のご降誕と新年おめでとうございます — ペトロ地主司教感謝ミサ2月7日 —

タルチシオ 菊地功司教 (新潟司教兼任) 教区管理者に着任

— 菊地司教は管理者代理に上杉昌弘神父(月寒・新田主任)を任命 —

札幌教区の皆様、主の降誕と
新年のおよろこびを申し上げます

カトリック札幌教区管理者

司教 タルチシオ 菊地 功



皆様すでにご存じの通り、昨年末十一月十七日に、教皇様はペトロ地主敏夫司教様が提出された札幌教区長職からの引退願いを受理されました。教会法の定めによれば、司教は七十五歳になつたときに教区長職からの引退願いを提出することとされており、即座に引退を認めるかどうかは教皇様の裁量の範囲です。地主司教様にあつては、教皇様の意向もあり、その後も四年以上にわたつて教区長職を務められました。推測するに、ご本人にしてみればやつの事で引退が認められたという安堵の心持ちということになる

のでしよう。地主司教様には、これまでの教区長としてのお働きに心から感謝申し上げるとともに、これからもお元気で活躍されることをお祈りいたします。さて、地主司教様の引退に続いて、札幌教区の新しい司教任命が発表されること期待されておりました。司教の選任は教皇大使によって完全な秘密の中に行われますので、その事情を推し量ることはできませんが、

残念なことに新しい司教の任命がなく、札幌教区の司教座は空位となりました。次の司教が任命されるまでの司教座空位の間、札幌教区の宣教司牧活動が円滑に継続されるようにとの配慮から、教皇様は福音宣教省を通じて私を教区管理者に任命されました。したがって私は、札幌教区に新しい司教が任命されるまでの間、新潟と札幌の二つの教区に関わることになりました。私がその任務をよりふさわしく果たすことができるとともに、また札幌教区に新しい司教が一日も早く任命されますように、どうぞ皆様の祈りをお願いいたします。

もしもありません。ご期待に添えないことも多くあることでしょう。どうぞ、ご理解とご協力をお願いします。一緒に札幌教区の歩みをすすめて参りましょう。

私は岩手県宮古市の生まれで東北の人間ですが、北海道にはほとんど足を踏み入れたことがありません。新潟の司教となつて初めて会議などで札幌を訪れる機会に恵まれましたが、未だもって北海道の地理すらよく理解しておりません。新潟教区も、例えば新潟市の司教館から教区の北端にある秋田県の大館教会に自動車で移動しますと、優に八時間を要するという細長い教区ですが、北海道の広大さにはまた異なる趣があることと存じます。事情をよく知らない分、時にはとんちんかんなことを申し上げてしまうこともあろうと思っておりますが、ご寛恕下さい。

さてご存じのように教皇様は、「アルスの司祭」聖ヨハネ・マリア・ピアンネの没後一五〇年を記念して、二〇〇九年六月十九日からの一年間を特別年である「司祭年」と宣言され、そのテーマを「キリストの忠実、司祭の忠実」と定め

られました。

『司祭年開催の告示』によれば、司祭年はまず、「全司祭が心の刷新への努力を深めることを目的としています」が、同時に司祭のための祈りを全教会に求める機会ともされています。教皇様は昨年七月一日の一般謁見において、「どうか、教区、小教区、修道会、とくに隠世修道会、信者の会と運動団体、世界中のさまざまな司牧グループの中で、聖職者の聖化と司祭召命のために、多くの祈り、とくに聖体礼拝が行われまじうように」と呼びかけられています。

日本の他の多くの教区と同様、札幌教区でも司祭の高齢化や後継者不足が深刻化しているようが、いまさら。またいくつもの仕事を兼任して頑張っておられる司祭も多くいるようが、加えて日本カトリック神学院には、札幌教区の神学生は一名しか在籍していません。

札幌教区の皆様、どうかこの一年を、司祭のために祈る一年として下さい。その祈りは、教皇様の呼びかけに従い、「聖職者の聖化」と「司祭召命」の二つの目的のために捧げて下さい。

個人的に、また小教区や修道院において、さらに信心のさまざまなグループにおいて、この一年、特別に時間を割いて司祭のために、そして新たな召命のために、お祈りをお願いいたします。

二つの教区を兼任するため、皆様と直接お会いできる機会が少ないかもしれませんが、また各小教区を訪問する機会も限られてしまいます。それでも毎週日曜日には、必ず皆様のためにミサの中でお祈りをいたします。新しい年、二〇一〇年が、皆様お一人一人にとって喜びに満ちあふれたときとなりますように、いっしょに深い父である神の祝福を祈ります。



一視察したバングラディッシュの子どもたちと一



ペトロ白柳誠一枢機卿逝去

二〇〇九年十二月三十日午前六時四十五分に療養先のイエズス会上石神井修道院ロヨラハウスにて心筋梗塞のため帰天。葬儀ミサは一月五日午前十一時から東京カテドラル聖マリア大聖堂にて執り行われ、多くの人々が別れを惜しんだ。

〔白柳枢機卿の略歴〕

- 1928年6月17日 東京都八王子市生まれ。翌日、メイラン神父より受洗
- 1954年12月21日 司祭叙階
- 1957年8月 ~1960年 ローマ留学。教皇庁立ウルバノ大学大学院博士課程卒業
- 1966年3月15日 東京大司教区補佐司教に任命
- 1966年5月8日 司教叙階
- 1969年11月15日 継承権を持つ協働大司教に任命
- 1970年4月29日 東京大司教着座
- 1983年7月~ 1992年 日本カトリック司教協議会会長を務める
- 1994年10月30日 枢機卿に任命
- 1994年11月26日 枢機卿親任
- 2000年6月 東京大司教引退
- 2005年4月18日 ヨハネ・パウロ2世教皇逝去に伴う教皇選挙に参加
- 2008年11月24日 188殉教者列福式ミサを主司式(長崎にて)
- 2009年12月30日 帰天 享年81歳

菊地司教と司祭団の集いが行われる

教区管理者として任命された菊地功司教(新潟司教兼任)と札幌地区と地区長

の司祭との始めての会合が十二月七日(月)に聖ベネデクトハウスで持たれ、これからの札幌教区の方角性が示された。既報の通り、新たな司教が決まるまでの

ペトロ地主敏夫司教 感謝ミサ

日時：2010年2月7日(日) 15:30~
会場：カトリック北1条教会 (札幌市中央区北1条東6丁目10)
司式：タルチシオ菊地功司教

ミサ後に隣接する聖園幼稚園ホールにて、地主司教様への「感謝」と、菊地司教様の「歓迎」のパーティーを行います。皆様で心からの感謝と歓迎の気持ちを捧げましょう。

管理者としての任命なので、これから、改めて司教候補選定の作業が始まることになる。

菊地司教は原則月一回程の来札となる。そのため、菊地司教は、各地区長からの推薦を受けて、上杉昌弘神父(月寒・新田教会主任)を教区管理者代理に選任し、パイプ役を含めて、司教不在時の教区運営を委ねた。また、宣教司牧評議会や各委員会活動は現状を維持することを司祭団に伝え、さらなる協力を仰いだ。



一白柳枢機卿の葬儀ミサ

また、司祭人事や小教区の改編などは、必要最小限に留める意向も伝えられた。

フランシスコ会のハイインリッチ・メツレル神父ドイツへ帰国



メツレル神父は、一九二六年三月二十五日にドイツで生まれ、一九四九年初誓願し一九五二年に初来日。札幌修道院で修道士として三十年間働き、要理の勉強を教え日本全国に教え子がいる。五十五歳の時オーストリア・シュワツツの神学校に行き、日本に戻って六十歳で司祭叙階。群馬県前橋、留萌、枝幸、稚内、富良野の各教会で働いた後、旭川修道院で四年半過ごした。

旭川地区長の鈴木神父にメツレル神父の思い出を語っていただいた。メツレル神父は、一七九センチと長身でおしゃれな方です。非常に繊細な方でした。食へのこだわりが素晴らしく、パンは札幌のベーカリーからの取り寄せでした。ライ麦のパンです。店主はドイツでパン作りを学んだ方でした。それにヨーロッパ産の蜂蜜（菓の入ったもの）を塗って食べます。それとカフェイン抜きのコーヒーと生野菜、ヨーグルト、バナナが朝食です。昼食は、ジャガイモと魚（カレイか鮭のみ）のボイルしたものと温野菜。夕食は、パンとハーブティーと鳥ささ身のボイルしたものと同野菜。三六五日全く同じパターンでした。あちこち歩いて安いものを探してきました。自分の部屋では林檎を好んで食べていました。もう一つは赤ワイン（日本のものは飲まない）です。ある意味『健康オタク』でした。五年前に前立腺の腫瘍が見つかった。拍車が掛かったようです。一日二回の散歩も欠かしませんでした。宣教司牧の第一線を退かれても、必ず名刺を持って出かけ、特別にお年寄りに声を掛けていました。

日にぎっくり腰のために入院しますが、二十八日自主退院しました。二十九日より修道院で介護生活が始まります。年末年始のため、施設のショートステイも全て駄目でした。何より急なことで介護認定も受けておりませんでした。そんな中、ドイツに帰ることを強く希望し、日本とドイツの管区長が判断して帰国が決定した訳です。旭川を離れた一月六日から介護ヘルパーが来る予定でした。六日十一時から旭川、富良野などの信徒の方々、マリア院のシスター、ヴァイアンネ会の会員が集まって聖堂でお別れの式、十二時から十五人のフランシスコ会の兄弟が集まって会食を共に致しました。十三時半のJRで札幌へ。リエントリーの手続きをして、翌日が早い便のためと天候急変に備えて千歳に宿泊し、七日昼過ぎの成田発の飛行機で母国に向かいました。『一時帰国』という言い方をしています。三月で八十四歳という高齢を考えると、再来日は非常に難しいと思います。ドイツで平穏な日々を送ることが出来るように、皆様のお祈りをお願いします。

お知らせ

◇紋別教会のFax番号が開通しました
⇒ 0158-23-3316

◇湯川教会のFax番号が変更となりました
⇒ 0138-51-9590

JCCAセミナー開催

アデイクションの未来「日本の地における治療共同体の展望」をテーマに開催

日本カトリック依存者のための委員会（JCCA、委員長 谷 大二 司教）の定例会とセミナーが、札幌で十一月三日から五日までの三日間、北一条教会と北農健保会館を会場に行われ

講演する西村先生

菅 仁美 先生

西村直之

講演者活動の背景とは
 講演者活動の流れ（1930年代～）
 NA、NAなど12ステップグループの誕生
 病的治療共同体の流れ（1950年代～）
 伝統的TCは、薬物依存者には向かない
 物・アルコール依存の精神医療サービスの流れ
 三介で新しい精神医療ユーザーが誕生
 民間の自助的組織の救済活動
 病的モデルのTCの登場（1950年代～）

四日のセミナーでは、菅仁美先生（米国ハーゼルドンセンターの日本人唯一の正スタッフ）、西村直之先生（医学博士、精神科専門医で卵の会あらかきクリニック院長）が講演を行った。今後のことを考えると様々な問題点が浮き彫りになる。

西村先生によると、

- ① 霊的側面の成長を強化するプログラム
- ② スタッフの教育支援プログラム
- ③ 施設卒業生の就職支援プログラム

ロケラム

- ④ 高齢者用プログラム
- ⑤ 家族用プログラム
- ⑥ 乱用レベル者用のプログラム

などの強化・確立が必要とすることである。

また、昨今は、薬物使用に対するハードルが低くなってきた（薬物が手に入りやすくなった）こと、重複障がいが多くなったことがあげられ、精神医学的問題や個々のケースが抱える問題を総合的に評価できる場所、広域的なネットワーク型回復プログラムの整備が今後の課題。



講演に聞き入る参加者

グループからとても良い反応を得ることができました。そのグループの人たちが言うには、今まで他の人の家を訪れるようなことは一度もなかったそうです。彼女たちはいっしょに集まって楽しい時を過ごしたり、自分たちの国の食べ物や味を味わったりして楽しんでいました。十二名の方とその子供たちが集まったことでもありますし、五人のお母さんとその子供たちが集まったことでもあります。夏の間はその祈りの会を毎週行っていました。冬になると二週おきの集まりになってしまいます。冬は子供を連れて出歩くのがむずかしいからです。

この活動は現在も続いています。今年の三月に二人のお母さんが子供に洗礼を受けさせたいと言ってくれました。その二人のお母さんと代母のために私たちが準備をしました。日本人のお父さんのために千徳神父様とマイレット神父様が準備して下さいました。二人の子供が洗礼を受けました。そのグループのクリスマスパーティーは十二月の最終日曜日のミサ後に、毎年行われることになっていま

す。英語が理解できない子供たちにどうやってミサに参加してもらうかということが現在の課題となっています。私たちは協力していただけるボランティアを必要としています。恵庭の二人の方（青年）が応援して手伝ってくれています。千歳の教会のどなたからもこの活動の協力をしていただけるといいなと思っています。この子供たちが教会に来て、日本人のボランティアの方といっしょに活動してひとつのコミュニティの一員として集まれるようになることが私たちの目的とされていることです。このグループ、つまり日本人と外国人のお母さん、その子供たちが教会の一員としてひとつになりまますように。

千歳で活動してきたようなことを他の場所でも行ってみようと思っています。帯広や釧路のような遠い場所でも祈りの会を毎週行うことは不可能です。月一回の集まりでさえ、苦小牧、室蘭、その他の場所に置いては計画すること自体がむずかしいことなのです。前もって計画をたてたとしても、学校の用事でお母さん達が参加できなくなることはありません。いっしょに集まるといふ計画を継続することがむずかしいとしても、続けていく必要があるであろうし、何度か何度も試みていく必要があるのです。彼女たちが信仰を強めたり、カラオケ大会のようにレクリエーション的な活動で体をリフレッシュする機会を提供することも必要なことだと思います。かつて中標津において関口神父様に加わって母親たちといっしょに歌って楽しんでることがありました。彼女たちが参加した時にもっと関心と興味をひくようにすれば参加しやすくなりま

す。体と心の両方をケアすることは大切なことです。祈ることは大切なことです。忙しい生活からくるストレスを軽減するためにも歌ったり踊ったりすることも必要なのです。そうすることで健康でいられたり、幸福感を得られたりすることもあります。結局それが、イエス様が私たちに望んでいることで「私はあなたたちに命を：豊かな命を与えるために来た」(ヨハネ10:10)この司牧で外国人に手をさ

らうようにすることは続けていくつもりです。日本人の信徒と外国人とはみんな神の子なのですから、共に教会の一員として助け合うことによって、私たちの愛をあらわし旅をつづけましょう。

教会の一致を求めて

「キリスト教一致祈禱週間」テキストより

キリスト教一致祈禱週間は、北半球では伝統的に一月十八日から二十五日に行われます。この日程は、一九〇八年にポール・ワトソンによって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日（現在は二月二十二日に祝われている）と聖パウロの祝日（聖パウロの回心）を結ぶ期間です。すなわち、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では一月は休暇の季節なので、他の日程（例えばペンテコステに聖霊降臨の祝日の前後）に変更する地方も有ります。これは一九二六年に信仰と職制運動が提案した日程ですが、これも教会の一致の

ためには象徴的で意義深いのです。すなわち、日程の限定は無く、いつでも各地域で実践できます。その場合、各地の礼拝形式や社会的・文化的状況に応じて、エキキュメンカルな企画がなされ、実践されることが適切です。

二〇一〇年のキリスト教一致祈禱週間の間、私たちはルカ福音書の二十四章全体を辿るように招かれます。墓で恐れおののく婦人たちが、エマオへの途上にあつた二人の意気消沈した弟子。あるいは、疑いと恐れに取り付かれた十一人の弟子たち―これらの人々は皆、復活したキリストに出会い、宣教へと派遣されます。「あなた方はこれらのことの証人となる」。この教会の使命はキリストが与えるものであつて、他のいかなる人もそれが自分からものだと言うことはできません。教会とは神において神と和解させられた人々、イエス・キリストの救いの力の真理を証しでき

新刊紹介

絵本「かみさまのゆめ (GOD'S DREAM)」

ドン・ボス「社 一、二六〇円

ノーベル平和賞受賞者で南アフリカ聖公会のデズモンド・ツツ大主教らが、温かくシンプルな言葉で、世界中の子どもたちをワクワクさせながら語りかける愛とゆるしのメッセージ。



る人々の共同体です。人々の歴史は強調点を異にし、キリストへの忠実が求めることに關して、時には見解の相違が生じるかもしれせん。しかし、皆が福音を告げるために働くのです。共に教会の一致のために祈りましょう。

カトリック教会の諸宗教対話手引き Q&A

日本カトリック司教協議会諸宗教部門がまとめた実践Q&A(八六〇円+税)から主なものを紹介します。

Q1 家族の間で宗教が異なる時、どのような生活の対話ができるでしょうか？

A1 信仰の恵みを頂いた者として常に深い愛情をもって家族に接し、家族がキリストを受け入れるように望み、続けて祈ることです。良い機会があれば、その望みを言葉にして家族に伝えるようにしましょう。

Q2 ほかの宗教の冠婚葬祭への出席について

て、どう考えたらよいでしょうか？

A2 そこに集う人々に対する敬愛の心をもって参列しましょう。なお「参列」は「参加」と異なり、その宗教を信じ、受け入れて宗教儀式に出席するとき「参加」していると考えられます。信仰が異なることをわきまえて出席することを「参列」と言います。参拝や参詣は「参加」にあたりません。

Q3 近隣の人々に、どのように接したらよいでしょうか？

A3 近隣の人々と接する時は「隣人愛」がキリストの至上命令であること、を思い起こしましょう。愛を行い、心を開き、助け合い、痛みを分かち合います。言葉をもって相手の信仰について尋ね、理解し、また福音を述べ伝えましょう。「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい」(マタイ七・十二)と述べられている通りで

す。

Q4 自分の信仰を受け入れてもらえない社会で生活するときは、どうしたらよいでしょうか？

A4 まずはキリスト者として生活の態度をもって信仰を証しし、良い機会があれば、状況を適切に判断して、勇気をもって信仰を表し、キリストについて話をしましょう。

Q5 お正月には初詣に出かけてもよいでしょうか？

A5 一月一日はキリスト者として、年の初めに希望を新たにし、神に感謝と賛美をささげ、祝福を求め、祈るためにミサに参加しましょう。その日は「神の母聖マリアの祭日」であり、守るべき祝日です。また「世界平和の日」であることを思い起こしましょう。それとは別に、カトリックでない家族や友人との付き合いで、初詣や初日の出に出かけても良いでしょう。

Q6 先祖の墓と供養をどうしたらよいでしょうか。例えば、自分先祖・両親の墓を祭主として守る立場にあり、先祖・両親の墓の維持管理をお寺に依頼しています。その際、永代供養料を納めることになりません。また、命日などには住職と一緒に墓前で折り祈禱料を納めています。それでよいでしょうか？

A6 核家族と国内移住により、先祖の墓の維持管理はますます難しくなっています。死者を手厚く葬り、墓を大切にすることはキリストの愛に基づく美德です。所管寺社に永代供養料を納めて墓を維持することや、墓前で祈る住職に謝礼するのは当然です。カトリック信者だけで墓前で祈る時は、カトリック儀式書「葬儀」(「墓前の祈り」)を参考にしましょう。なお、カトリック信者として、先祖や亡き親族・友人・知人のためには、司祭にミサを依頼し、そのミサに参加するように心がけましょう。カトリック信

訃報

者でない人のためにもミサを依頼することができず。

神さまのみもとでの安息をお祈り申し上げます。

◇殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会
Sr.マリア・ピア 伊藤綾子



五十五年の奉獻生活を送り、二〇〇九年十二月十一日二十二時三十分胆嚢癌のため札幌市の北海道消化器科病院にて永眠。シスターは一九五七年初誓願後一九九二年までの三十五年間、中学、高校の理科・化学の教師として使徒職を全うする。その間の四年間、樺戸郡新田にあつた新聖(にいほり)藤女子中学・高等学校で教えた他は、札幌の藤女子中学・高等学校で教鞭をとる。一九九三年からは新田マリア院で院内の仕事をする傍ら、月形藤の園でお年寄りの食事の介

助や話し相手の手伝いをす。信心深く忠実で、社会のニーズにも敏感で、学校で教えていた時代には生徒たちの優しい先生で、神さまへの良い導き手であり、藤の園でもお年寄り一人ひとりに優しく親切に接し、明るく喜んで愛の奉仕を行った。

【略歴】

- 1921年12月13日 伊丹市生まれ
- 1947年5月24日 山鼻教会で受洗
- 1954年9月8日 入会
- 1957年8月12日 初誓願
- 1963年8月12日 終生誓願
- 2009年12月11日 帰天
- 享年88歳

編集後記

長年導いて頂いた地主司教様と、新潟司教と兼任なさりながらも教区管理者を引き受けて頂いた菊地司教様に心から感謝するとともに、新しい札幌司教が誕生することを、共に祈りしていきましよう。